

英 語 科

蒔 田 守
肥 沼 則 明
久保野 り え
植 野 伸 子

「読める」生徒を育てる系統的指導

～文字の音声化からまとまりのある文章の読みまで～

1. はじめに

本校英語科は、大正12(1923)年にH.E.パーマーが本校の前身である東京高等師範学校附属中学校を「オーラル・メソッド」の実践校として以来、「聞くこと」「話すこと」を中心としたその指導法を脈々と受け継いできた。もちろん、その伝統に甘んじることなく、時代の変化を見定めながら、目の前にいる生徒の実態に合った指導法を確立すべく新たな取り組みもしてきている。そして、現場の指導者として本当に必要なことは何かということに重点を置いた研究を進め、その成果を以下の研究協議会で発表してきた。

- 平成8～11年度…「育てたい生徒像」を設定し、「聞くこと」「話すこと」を中心とした創造的な言語活動の3年間の指導計画を作成した。
- 平成12～15年度…「自立した学習者」を育てるための4つの要素を相補関係を持たせて指導することの重要性とその具体的指導内容を提案した。
- 平成16～18年度…入門期指導のあり方と具体的な指導内容を提案した。
- 平成19年度 ……小中連携と中高連携を意識した中学校の具体的指導事項を提案した。
- 平成20～24年度…「新学習指導要領に対応した授業作りの工夫」をテーマとし、4技能を総合的に育成するための統合的な活動の例、カリキュラム編成上の課題、入門期の指導内容とそれを支える指導理念、新しい教科書への対応と小中連携を考えた入門期指導の実践例などを提案した。
- 平成25年度 ……「意味を伝える音声指導」をテーマに、生徒が英語で気持ちを伝えることができるようになるための授業における様々な工夫や具体的な指導内容を提案した。

このように、本校英語科は時代の要請による事柄はもちろんのこと、英語教育において恒久的に追究されるべき内容も研究してきた。そして、英語科教師全員が最終的に「育てたい生徒像」に関して共通理解をもち、誰が、いつ、どの学年の、どのクラスを担当しようとも、生徒が戸惑わないような指導を心がけながら、日々の学習指導を行ってきている。

2. テーマ設定の理由

日本の中学校や高等学校では、生徒たちは英語教科書本文をどのように「読んで」いるだろうか。英文を「読む」とは「日本語に訳すこと」と考えている中学生・高校生は多く、またそうさせている「訳読式」の授業は未だに多いと思われる。

大学英語教育学会が1985年に実施したアンケートによると、日本の大学・短大生の67.7%が自分の英語力の中でリーディングが最も優れていると考えているが、TOEFLその他のデータによれば、日本人のリーディング力は他の国の受験者と比べると最低に近いという結果が出ている(高梨, 2009)。このままの状態を続けていては、日本の英語学習者はいつになっても英語を「読める」ようにならない。しかも、英語教師がその指導方法を変えな

いと、その指導を受けた生徒が教師になったときに同じことを繰り返すという負のスパイラルが続くことになる。私たち英語教師が「読むこと」に対する指導を見直し、効果的な方法を実践することは、急務の課題と言える。

よって、今年は「読むこと」に焦点を当て、「『読める』生徒を育てる系統的指導」をテーマとし、その実践をまとめることにした。

3. 「読める」生徒を育てる指導の基本的考え方

(1) 「読める」とは何ができることか

「読める生徒に」と言った時、中学校のゴールは、高校1年の教科書程度の文章をすぐに読めることかもしれない。または、副読本の物語が楽しんで読めることかもしれない。最後にはそこまでを目指すか、しかし、その前にもっとも大切なことは「文章」ではなく、1つの文の意味をきちんととれることである。それなしにまとまった文章を読んでも、いい加減な推測しかできない。

では、1文の意味をきちんととれるとはどういうことか。それは、訳を通さずとも、文の構造（主語が何で、動詞がどれなのかわかる）がわかり、意味が頭に入ってくるということである。さらに、文が短い時には訳との違いが判然としないかもしれないが、後ろから日本語訳を考えるのではなく、英語の語順のまま理解できる、直読直解できる、ということである。

「英語をスラスラ読めるようになりたい」と言った時、私達がイメージするのは、決していちいち日本語に翻訳している姿ではない。しかし、残念ながら生徒がまとまった英語の文章を読む時、読むという行為が「日本語に翻訳する」という作業になっている場合が少なくない。と言っても、理解の過程で日本語を一切介在させるべきではないと主張しているのではない。単語単位では訳語として日本語が浮かんでもかまわない。しかし、文に対していちいち日本語訳を書いたり、頭で日本語訳を浮かべなければ理解できないというのは、その言語の習得として「読める」とはまだ言えない。英語が「読める」というのは、前述したように、英語の語順のまま頭から意味を理解していけることを指す。

(2) 「読む」という行為のメカニズム

ここで、「読む」という行為のメカニズムを改めて考えてみたい。

The Oral Methodを提唱したHarold E. Palmer は、*Memorandum on Problems of English Teaching in the Light of a New Theory* (1924)の中で、表そうとする概念の伝達を、音声で行われるThe Primary Speech Circuitと、その上に文字が介在するThe Secondary Speech Circuitに分けて次頁の図1、2のように示した。図1のAが話し手、Bが聞き手、図2ではAが書き手、Bが読み手である。図1に示す音声による伝達をはじめにあり、「読み」という文字を介在した伝達はその上によって成り立っているわけである。

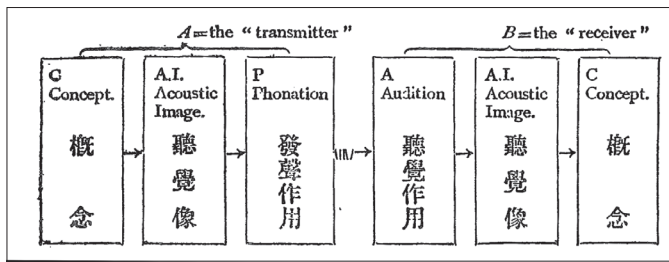


図1 The Primary Speech Circuit

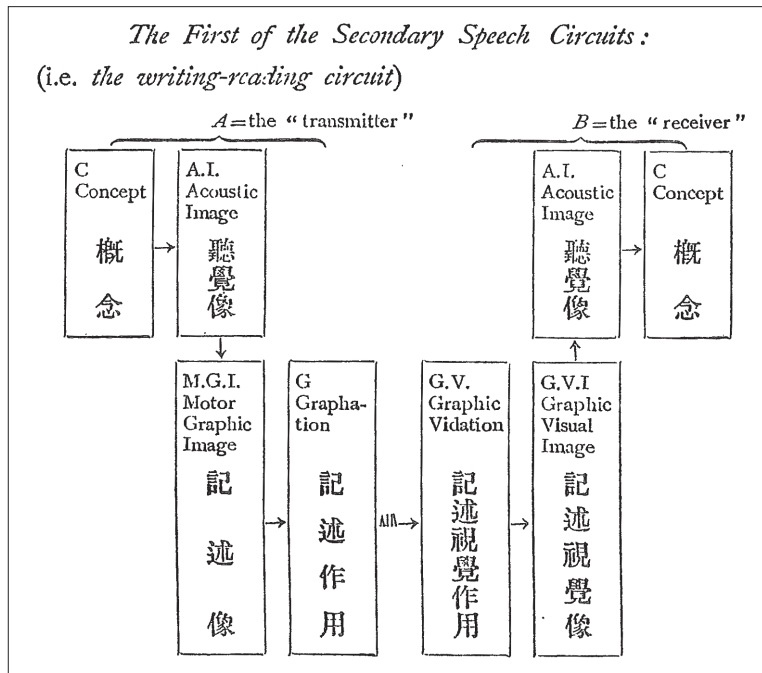


図2 The First of the Secondary Speech Circuits

一言で「読み」と言うが、B（読み手）が行っていることを図2に従ってていねいに記述すると次のようになる。

1. 記述視覚作用 紙の上の形を目に入れる。
 2. 記述視覚像 知っている文字，文字列，単語，文として認識する。
 3. 聴覚像 認識した文字列が，脳の中で知っている言語の音声になって認識される。
 4. 概念 「ああ，この音声ならこの意味だ」と意味がわかる。（概念の伝達完了）
- この2, 3, 4は，知っている言語だから成り立つことである。

1で同じ文字を目に入れても，知らない言語ではそれは意味を成す形として入ってこないのので，2は行われぬ。知っている言語ならば，聴覚像（音声イメージ）が浮かべば意味がわかる。

私達の母語の日本語では、漢字という表意文字を多用していることもあり、又、それ以上にあまりにも日常的に自然に行っていることであるために意識されないが、このように「読める」ということは「聞いて意味のわかる言語である」ということを前提としている。スピードが速すぎたり、発音が不明瞭であったりしない限りは、その読んで意味のわかる文は、自分が聞いてわかる言語で書かれているのである。

外国語の場合、処理スピードが遅いということはあっても、この「読み」のメカニズムは基本的に同じである。これに対して発音もわからないまま、訳語を書き、それをつなぎ合わせて意味を作り上げよう、というのは読みのメカニズムではない。ゆっくりでもよいので、「聞いてわかるから、読んでもわかる」という回路を作りたい。暗号を解くように1語1語、1文1文訳を書いていく方法では、目指す姿に到達しない。外国語、つまり英語であっても、読めるようにする前提として、聞いてわかるようにしておく、ということが必要である。

(3) 「読める」ようになるために聞かせる音声

読めるようにするために聞かせるとは、どのような活動か。母語環境ならば、意味のある場面で豊富な量の音声が入ってくるので、自然にその言語を習得できる。

一方、学校などで教える外国語の場合、限られた授業時間でこの目的を達成するためには、最終的には構造も意味もはっきりつかめるような、意識的にコントロールされた音声が必要だ。そう考えた時、市販のCDでは、いかに発音が美しくとも、この目的に適さないことが多い。もっとも良いのは、生徒の理解度を知り、また表情から理解度を量りつつ、補足したりスピードを変えたり強調したりできる、教師の音声である。ネイティブスピーカーのナチュラルスピードの英語である必要はない（無論、このような練習もしてよいが、それはまた別の話である）。重要なのは、意味を取らせながら、語順通りに理解させるリスニングをさせることである。速い英語を聞かせて、一部キャッチできた単語だけで内容を推測させたり、必要な情報だけを聞き取ったりするようなタスクをさせるリスニング活動はここでは必要ではない。

このようにして意味を理解しながら英語の文を聞くことによって、先ほど述べたように、訳を通さず頭から順に理解していく回路を生徒の頭に作ることをねらいとした授業を展開することが大切である。

(4) 「読める」生徒を育てる方法

上記のような考えから本校では、「読むこと」の目標を、訳読式における語彙や文法の習得とは切り離れた、本来の「読むこと」（中学校学習指導要領では「(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」他（エ）、（オ））の目標とし、「読める」生徒を育てるために、以下の3つの方針で指導している。

① 訳を通さずに理解に導く

教科書本文に代表される英文を、自然な状況の中で、できる限り英語で伝える。実物、絵、ジェスチャー、言い換え、などを駆使して、教師が訳以外の方法で生徒に意味を伝える。訳語の助けを借りることがあっても、最終的には、英文の意味・構造を英語のままつかみ、英語を後ろから訳すのではなく、頭から意味をとらせるようにし、直読

直解できる力を身につけさせる。

② 内容を知るといふ本来の目的を意識したさまざまな活動を行う

「読むこと」本来の目標を実現するために、授業やその他の学習指導において、さまざまな発問や活動を組み込んでいくことが大切である。もちろん、1つ1つの文の意味が正確にわかることが基本であるが、進んだ段階では、全体をおおまかにつかむ読みから始めることもある。又、外国語であっても、表面的な意味内容だけでなく、行間に込められた意味合いなどを、母語同様に読みとれるものであることを実感させる。

③ 量に触れさせる

まとまった文章の読みとりに進んだ段階では、授業以外の場面でできるだけ多くの「読むこと」の教材に触れるような課題を与えることも意識している。読む量を増やすことによって「読める」力を一層伸ばすことを考えているためである。

最終段階としては、生徒が自分自身で本、雑誌、インターネットの記事などを読むようになるように動機づけたい。ここまで指導することができれば、生徒は自分自身で英語を読むことを楽しむようになり、自然にまとまりのある文章を早く正確に読めるようになるであろう。

では、次節より順を追って、具体的に本校で行っている指導を紹介する。

4. 実践例

(1) 文字の音声化

① 教科書を開く前の指導

昭和2(1927)年に書かれた本校の「英語科教授細目」には、入門期における指導手順が次のように記されている。

「第1学期最初の5・6週間は、主として口頭で英語を授け、これを耳に、口に慣れしめて、或程度まで容易に平易な英語が聴き分けられ、且つ自由に言えるように鍛錬する。こうして生徒が英語の音に慣れた時、初めて読本に入り、読み方、綴り方、書き方の順に授けるのである。課の進むにつれて現れる新しい語句、言い表し方に対しては、常に之を耳に、口に、目に慣れしめ、然る後書き方に移ることにしている。」

本校では現在もこの自然な言語習得の段階、すなわち「聞くこと」→「話すこと」→「読むこと」→「書くこと」を大切にしている。従って入門期にいきなり教科書を開き単語や文を読ませることはしない。5月末から6月にかけて教科書を開ける前に、授業に必要な約束事や Classroom English を指導し、続いて my, your から始めて、教科書4課程度までの文法事項を絵や実物を使って口頭練習を行う。絵をまとめたハンドアウトで練習し、授業の要点は音声録音し自宅に持ち帰らせる。

新入生は小学校で外国語活動を経験しているので、定型表現には自信を持って素早く応答でき、教師の質問に対しても、一語文で的確に応答できる。しかし、このような生徒も小学校では基本的に「読むこと」「書くこと」の指導は受けていないので、初期指導は丁寧に行わなければならない。そこで上記の口頭練習と並行して、アルファベットの発音練習から始まる「読むこと」の指導を行っている。

② 文字の表す音

入門期の初期指導において「読むこと」に関して最も注意を払わねばならないことは、正しくアルファベットを読ませることだ。生徒は小学校の外国語活動で比較的多くの英語をインプットされてきているが、授業中に発音を直される経験に乏しいため、正しい音で発話していないことが多い。特にアルファベットの発音に関しては、英語独特の音声の特徴を身につけさせるために、改めて学ぶ必要がある。それはアルファベットの「文字の名前」を正しく言えば、「文字の音」をきちんと発音でき、その「文字の音」を組み合わせれば単語や文を音声化できるようになるからである。

そこで、本校の入門期指導においては、まずアルファベットの発音を一文字ずつ学び直す。

続いて、学んだアルファベットの発音は「文字の名前」を表し、これとは別にアルファベットの1文字1文字には「文字の音」があることを知らせる。ここで子音字の表す音、母音字の表す2種類の音（短音と長音）を指導する（図3）。生徒はモデルとなる教師の音と自分の音を録音して家に持ち帰り、家庭で両者を比較し練習できるようにする。こうしてつづりを見て、独力で音声化するための土台作りが始まる。

No. 24

文字の名前と文字の音 (1)
～文字の「音」を覚えよう～

課題1 白抜きの文字に注意して、A NEW ABC SONG を歌おう。

a b c d e f g
h i j k l m n
o p q r s t u (la la)
v w x y z

アルファベット26文字には、それぞれの文字の「名前」とその文字が表す「音」があります。上の歌は、文字の「名前」を歌ったものです。今回は、それらの文字の表す「音」について学びます。

まず、確認できるように音を出す文字を練習します。

① 唇や舌を触り放つことによって、口の中にたくわえたエネルギー（息）を一気に解放させます。

② したがって、この音は長くは続けられません。あとには、息の音しか残りません。

課題2 次の文字の「音」を覚えてみよう。
ヒント：のど（声帯）を震わせずに、破裂させるように言います。→内線話風発音

p t k

課題3 次の文字の「音」を覚えてみよう。
ヒント：のど（声帯）を震わせて、破裂させるように言います。

b d g j

図3 「文字の音」のハンドアウト

③ 単語を読む

多くの教師が、「単語が読めない・書けない・覚えられない」ことが生徒の最も大きなつまずきと捉えている（ベネッセ教育総合研究所，2008）。この「単語が読めない」という実態は、次のようなものではないかと推測する。

例えば、SMAPは「スマップ」と読めても、SNAPは「読めない」と多くの生徒は言う。これは、SMAPを図形のように認識して「スマップ」と言い、SNAPが読めないのは、「見たこともないし、習っていないので、読めないし、読めるはずもない」とする生徒が多数いるのではないかと推測される。このことは、この生徒が「つづりが発音を示している」ことを明示的に知らされていないか、話には聞いているが実際に運用するには至っていないことを示唆している。言い換えれば、これらの「単語が読めない」生徒が、たとえば次の単語、bat, cat, fat, hat, matを関連のない「図形」のように理解し、各文字が表す音と切り離して覚えるなら、記憶への負担は膨大なものになるだろう。これでは英語が嫌いになっても仕方ない。このような生徒には、「つづりは発音を示し、文字には固有の音があるので、そのつづりから単語の発音を推測できる」ことを得心させることが必要だ。そうすれば生徒の悩みは大いに軽減できるだろう。

本校では、「アルファベットチャンツ」（図4）などを用いて単語を読む練習を始める。ただし、最初からつづりを提示するのではなく、次の段階を追って指導する。

ア）絵や実物を示して、その名前を英語ではどのように発音するか聞かせる。

- イ) 絵や実物を示して、何であるか理解し、その名前を英語で言わせる。
- ウ) 絵をランダムに提示しても、即座に言えるまで練習させる。
- エ) 単語の示す意味と音声とが合致したら、はじめてつづりを提示する。
- オ) チャンツに出てくる単語以外にも、ルール通り読める単語を提示し、練習させる。
- まずはルール通りの単語をはじめに練習させることを基本としている。ただし、このチャンツで使われている単語は今までのルール通りに読める bag, desk などだけではない。これを機会にここに出てくる単語 26 語を読めるようにする。例えば、silent e や子音の重複などについても指導する。併せて fish の **sh** や girl の **ir** などについても指導し、つづり字から発音を想起できる単語の幅を広げていく。

生徒はここまでの過程で、英単語が表音文字であること、それぞれの文字を起こしていけばある程度読めること、例外的なつづりについてはその例外を覚えれば読み書きできるようになることを学ぶ。この段階で生徒からは、家や街中で読めるようになった英単語 (Name / Date / Made in Japan / Crane など) を見つけたことや、読めて感動したという報告が多数寄せられる。この喜びがこれから後の英語学習を支えることになる。

④ 既習表現の文を読む

単語の読み方を学習した後は、次は授業で練習し既に口頭で言えるようになった表現を文字で提示し、既習表現の文を目で見て音声化する練習を行う (図 5)。

今まで口頭練習・録音してきた表現について、対応するハンドアウトには表現そのもののつづりは一切印刷されていない。従って、既習表現の文を目で見て音声化する練習では、初めて出会うつづりも多い。慣れない生徒は戸惑うが、繰り返し練習するうちに次第に読めるようになる。学習したつづりと音の関係を、運用しながら身につけていく段階と言って良いだろう。

既習表現の文を読む練習をした後は、新しいハンドアウトの裏面にその日に使った英語表現を文字で印刷し、音声だけでなく文字も家庭へ持ち帰り、家庭学習で定着を図ることができる

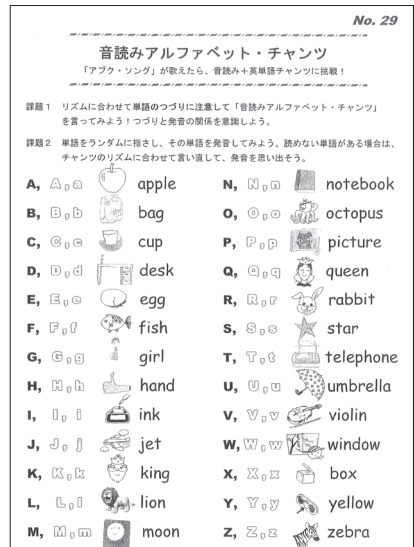


図 4 「アルファベットチャンツ」のハンドアウト



図 5 既習表現を文字で見るためのハンドアウト

ようにしている。このようにして教科書を開く前に、段階的に順序立てた指導を行い、生徒が無理なく教科書での学習に取り組めるよう支援している。このような細かい段階を積み重ねることこそが、本校生徒の英語学習を支えていると自負している。

(2) 教科書本文に関する「読むこと」の指導：基礎編

① 毎回の授業での読むことの扱い

毎時間の基本的な授業展開は、「復習→新文法事項導入→句型練習→教科書本文口頭導入→教科書本文練習→まとめ」の流れを基本ととらえ指導している。「読むこと」に関する指導上の留意点としては、はじめに教科書を開いて和訳させるのではなく、読む前に教科書本文口頭導入（Oral Introduction：後述）で十分に内容を理解させておくことが肝要である点を強調したい。新出語句や新しい表現の提示や説明も、できるだけ意味の流れの中で行いたい。

② Oral Introduction

英文を音声聞いて理解させるのに非常に有効なのが、Oral Introductionである。Introductionとは言っても、導入部分だけを話すのではない。その目的は、生徒には一見単なる文字の羅列にしか見えないであろう教科書の文章を、意味のある内容にして届けることである。

学年が低いうちは、絵やジェスチャーで、意味を推測させる。学年が上がると生徒の語彙も増え、教師は易しい英語で語ったり、言い換えてみせたりすることができる。途中で効率化のために、訳語を示すことがあってもかまわない。もっとも重要なことは、最後には必ず英文に戻り、意味がとれるように教師の音声で聞かせることであろう。

Oral Introductionの段階では、生徒によっては、構文などには意識が回らないこともあるが、ほんやりと話の雰囲気をつかむ程度ではなく、1文ごとに何を言っているのかつかませたい。遅くとも開本して、文字で見た後には、構文も意味もすべてわかるようにさせたい。

それをふまえて、自分で音読する際にも、教師のOral Introductionの場面を再び想起し、自分でも意味を伝えるように読むことが、音声を通じて意味を取ることに繋がっていくと考えられる。

③ 音声で理解したことを文字で確認する

①で述べたように、音読練習は意味理解を前提としている。従って、音読練習する前にOral Introductionで理解した内容について、開本して読んで自分で意味がわかるか、英語で理解できないところはないかを確認するために、Listening for ReadingまたはSilent Readingを行う（④のア）に当たる。

Listening for Readingでは、自分で声を出して読む前に、CDまたは教師の音読のペースで教科書を黙読し、自分が音声で理解したことを文字で確認する時間を取る。

Silent Readingでは、自分のペースで自分の理解を文字で確認させる。生徒は語彙レベルの疑問は辞書や巻末の単語リストで解決する方法もあるが、何度考えてもわからない点や腑に落ちないところについては自ら質問する良い機会となる。Silent Readingは、

生徒が主体的に授業に関わる場面を作り出す良い機会なので十分活用したい。

この後、生徒が理解しづらい点や、ぜひ納得してほしい事柄について、必要に応じて補足説明し、音読練習に向けて意味理解を深める。

④ 音読練習

次に意味の伝わる音読ができるよう音読指導をする。以下にその一例を示す。

ア) Listening for Reading または Silent Reading と必要に応じた補足説明

イ) Choral Reading (単語→文)

ウ) Buzz Reading

エ) Overlapping

オ) Read-and-Look up

カ) Individual Reading

キ) (Recitation)

(3) 長い文章（教科書の読み物教材，副読本）の扱い方

① 指導の基本

ア) 教科書の読み物教材

どの会社のどの学年の教科書にも、たいてい複数の「読むこと」を指導の中心にした教材が配置されている。そして、それらの多くは物語であったり説明文であったりして、単元全体で1つの完結した内容になっている。それは他の課のほとんどが会話形式の教材になっているのとは見た目も対照的なものである。また、本文には新出文型が含まれておらず、そこまでに学習した表現の復習に位置づけられているものが多い。そのような読み物教材を扱う際は、他の課とは異なった方法で指導することが大切である。新出文型を含む他の課を扱う場合は、「1 セクション、1 アワー」（1 セクションのすべての内容の指導を1時間で行う）が基本である（中には「1 セクション、2 アワー」が前提のページもある）が、読み物教材は必ずしもそのように扱う必要はない。もちろん、細かい部分までじっくりと理解させていかなければ全体の要点が理解できないような教材の場合は、セクションごと順番に読ませていかなければならないであろう。しかし、内容によっては全体をとおして理解させるようなやり方をした方が教材の良さを生かせる場合もある。後者のような読み物教材の場合、1つの指導方法として次のような指導過程が考えられる。

1) 単元全体の概要を理解させる

1文ごとの理解度は度外視して、教材全体を一読させて（場合によっては複数回読ませて）、概要を理解させる。概要が理解できたかどうかは、どのような内容であるかを口頭または文書で簡単に説明させてみるとよい。事前に新出語彙の意味を確認するかどうかは、教材の難易度や目標とする概要理解の課題の程度による。

2) セクションごとの要点を理解させる

1) よりも教材全体の内容をより深く理解させる方法として、セクションごとの要点をつかませるようにする。要点が理解できたかどうかは、該当の部分に関

する質問に口頭または文書で答えさせてみるとよい。Q&A は英語と日本語のどちらでもいいであろう。新出語彙の意味の確認は事前に行っておく必要がある。

3) 単元全体の詳細な内容を理解させる

教科書の教材であれば、単元全体の細かい内容まで理解させる。しかし、だからと言ってすべての文を1文ずつ和訳させるということではない。和訳がなければ生徒が不安だと言うのであれば、和訳を印刷して渡してもよい。むしろ、個々の文が全体の内容に対してどのような位置づけにあるのかということなどに目を向けさせることの方が大切である。

イ) 副読本

一方、学校によってはより多くの英語を読ませるために、教科書の題材に関連した副教材や副読本を読ませるようなこともあるであろう。そのような教材を読ませる場合は、教科書の読み物教材よりも大まかな内容理解でよい。つまり、上記の1)～3)の1)だけか、1)と2)の段階までとする。その方が教材の良さを生徒にも味わわせやすく、かつ補助教材を読んでいる(読まされている?)という生徒の心理にも合った指導ができる。ちなみに、本校で採用している副読本は表1のとおりである。

また、副読本であるから、すべてを授業中に読ませるということは前提としない方がよい。本校の場合、表1を見ればわかるとおり、各学年とも多くの副教材を長期休業に合わせて導入している。つまり、長期休業前に数時間を費やして最初の数ページをやや詳しく読み、残りは長期休業中に生徒自身で読み進めるというやり方である。ただし、2年生の *Elementary Steps to Understanding* と3年生の *Newsbreaks* は半年間をかけて週に1回の割合で授業で少しずつ読んでいく方法を採用している。

なお、教科書の読み物教材を読ませる場合も副教材(副読本)を読ませる場合も扱うページが多いので、生徒の意識を焦点化しやすくするため、あらかじめ授業の流れに沿ったワークシート(本校例資料1, 2)を用意しておく方がよい。

表1 本校で採用している副読本(平成26年度)

学年	指導時期	書名(出版社)※ OUP = Oxford University Press
1年	12月～冬休み	<i>The Town Mouse and the Country Mouse</i> (OUP) *
	3月～春休み	<i>The Little Red Riding Hood</i> (OUP) *
2年	4月～10月	<i>Elementary Steps to Understanding</i> (OUP) *
	7月～夏休み	<i>Deep Trouble</i> (OUP) *
	12月～冬休み	<i>Sherlock Holmes: The Blue Diamond</i> (OUP) *
	3月～春休み	<i>Life Lines</i> (OUP)
3年	4月～12月	読みトレ100 [長文問題集] (浜島書店) **
	7月～夏休み	<i>One-Way Ticket</i> (OUP) *
	10月～2月	<i>Newsbreaks</i> (エミール出版) *
	10月～冬休み	<i>Quest</i> [長文問題集] (エスト出版) *

* は CD 付き。** は 音声 を HP でダウンロードできる。

② 指導例(ワークシートに見る実践例)

①でも述べたが、「読むこと」の活動にはいろいろなやり方がある。特に、長い文章を読ませる場合は、生徒の学習段階や教材の内容及び難易度によって指導方法にバリ

エーションを持たせるようにしたい。そして、そのバリエーションは生徒に具体的な課題を視覚的に与えるワークシートにも反映させるようにする。

<課題のバリエーション例>

- ・全体の概要を簡単に説明させる（日本語）
- ・全体の概要にタイトルをつけさせる（日本語／英語）
- ・セクションごとの概要を簡単に説明させる（日本語）
- ・セクションごとの概要にタイトルをつけさせる（日本語／英語）
- ・要点を問う質問に答えさせる（英問英答）
- ・要点を問う質問に答えさせる（和問和答）
- ・全体の内容の続きを考えさせる（英語）

なお、実際の指導例は資料1（教科書の読み物教材）と資料2（副読本）のワークシートを参照されたい。

(4) 教科書本文に関する「読むこと」の指導：発展編

教科書を用いて「読むこと」の活動を行う際、4. (2)で述べたように本文の情報を正しく読み取れることがゴールになることが多いが、教科書の解釈が一通り終わったら、ぜひ以下に紹介するような様々なタスクを与えることで、生徒に本文に何度も目を通させ、自然な形に近い何通りもの「読み」の経験をさせる機会を持たせたい。すなわち、1文ずつきちんと解釈してゆく精読や、大まかに全体の概要をつかむ読みはもちろんのこと、ただ受け身の姿勢で読むのではなく、読み手が本文に主体的に関わってゆくような読み方をさせたい。こういった活動は他の3技能との統合的な活動として行うこともでき、これにより、生徒は各文の解釈だけに躍起になるのではなく、文章全体が伝えようとしていることや、登場人物たちの気持ちなどにも思いをめぐらせることができる。

このような活動を行うには、まず教師自身が教科書本文を熟知していることが不可欠である。どの学年を担当するにせよ、教科書は全学年分隔々まで目を通し、登場人物の性格やレッスン間のつながりをよく知っておくことが「読める」生徒を育てることにつながる。「教科書はつまらない」という教師の不平もよく耳にするが、以下に紹介するように、教科書を読み込むことで、いくらでもおもしろい部分やつながりを見つけることができる。生徒に英語で読むことを楽しんでほしいと思うなら、「つまらない」と決めつけずに、まず教師自身が英語で読むことを楽しんでもらいたい。

① 行間に英文を付け加えさせる

これはいわゆる「行間を読む」活動をさせることで、本文のシーンを生き生きと思い描かせたり、より深く理解させたりできる。具体的には、1文ずつの解釈が終わっている段階で、文脈を意識させながら本文全体をもう一度読ませ、本文にはない文を「どこに」「どのように」入れるかを考えさせる。教師は簡単な指示を出すだけで、生徒は文章や会話の自然な流れを意識しながら本文を読むことになる。本文のレベルやタイプによって指示の出し方は様々に工夫できるが、以下いくつか例を挙げる。

ア) 入れるべき英文を与え、入れる場所を考えさせる

スポーツニュースのインタビューで、選手が一言 “Thank you.” というべき場所を考えさせながら読ませる。(ONE WORLD English Course 3: Lesson 5 Part 3)

Interviewer: This is Perry Anderson reporting from the Grand Prix of Figure Skating. Ms. Taylor, the Short Program didn't go well for you yesterday.

Ms. Taylor: No, I made two mistakes which lowered my score.

Interviewer: But you were excellent in the Free Skating this afternoon. What was the difference?

Ms. Taylor: There are always things which make me nervous. But today, I didn't feel any pressure.

Interviewer: Well, it was a beautiful performance. Congratulations!

Anchor: For more sports news, see our website at www.onn.com.

下から2行目でインタビュアーが選手に “Congratulations!” と賛辞を述べているので、これに対して選手がお礼を言うのが自然である。

イ) 足りない文があることのみ伝え、どこに何という文を入れるか考えさせる

健太がロンドンで、ホームステイ先のトムと話している場面で、ある一言が足りないために、トムがそっけない人に思えてしまうところがある。どこに何という文があれば、円滑なコミュニケーションになるか考えさせながら読ませる。(ONE WORLD English Course 3: Lesson 2 Part 1)

Kenta: This is a really beautiful neighborhood.

Tom: Yeah, I love it. I have lived here in Harrow since I was born.

Kenta: I've stayed at your house for just one week, but I love this town, too.

Tom: It's lunchtime. Are you hungry?

Kenta: I've been hungry for about an hour!

Tom: Let's get fish and chips.

Kenta: Chips?

Tom: Chips are French fries.

Kenta: French fries?

Tom: Don't worry. You'll love them!

3行目で健太が「たった1週間でこの町が大好きになった」と言っているのに、トムがそれを全く無視して「さあ、お昼だ」と返しているのはあまりに冷たい。自分の生まれ故郷を気に入ってくれた友人に対するリアクションとして、“Oh, thanks.” や、“I'm glad to hear that.” などが紹介できる。

ウ) より状況をわかりやすくするために、付け加えられる文を考えさせる

修学旅行の事前学習をしている場面で、韓国からの転校生ジンの優しい一面が伝わる場所がある。どこからそれがわかるか考えながら読ませ、さらにどんな文があれば、ジンの優しさがより読み取りやすくなるか考えさせる。(ONE WORLD English Course 3: Lesson 1 Part 1)

Mei: Jin, can I see your guidebook?

Jin: Sure, but everything's written in Korean. What do you want to know?

Mei: Mr. Sato talked about Horyuji. What does the guidebook say?

Jin: Let me see. It was built in 607.

Bob: That's more than 1,400 years ago!

Jin: Right! It's the oldest wooden building in the world. And it was selected as a World Heritage Site in 1993.

Bob: I can't believe it's still standing!

2行目のジンのセリフで普通なら、“Sure, here you are.”と言ってメイにガイドブックを手渡すところだが、“What do you want to know?”と返していることから、ハンゲルが読めないメイのためにジンが代わりにガイドブックを読んであげようとしていることがわかる。例えば、“Sure, but everything's written in Korean, so I don't think you can read it. I'll read it for you. What do you want to know?”のような表現を考えさせたい。

② 既習のページに素早く目を通させる

一般的に scanning と呼ばれる活動に似ているが、本文に関する質問の答えのヒントを既習のページから探させることで、英文に素早く目を走らせながら欲しい情報を探させる。テストが終わってしまった既習ページを生徒が開くのは、文法や語彙の確認程度のことが多いが、こうすれば、新たな観点で既習部分の読みを楽しむきっかけを与えることができる。

例えば、ONE WORLD English Course 1: Lesson 6 Part 4 に、メイが誕生日パーティで健太からもらったバースデーカードをその場で読もうとすると、健太が「今は読まないで!」と慌てるシーンがある。ここで「なぜ健太はカードを今読んでほしくないのか」を考えさせると、「恥ずかしいから、健太はメイに好意を持っているから」と想像するのは生徒には難しくない。「どうしてそう言えるか、その根拠は?」と尋ねると、「読め」と言わなくても生徒は熱心に既習のページをめくって一心不乱に本文を読み始める。答えの一例は以下の会話で、健太がメイの気を引こうと涙ぐましく話しかけている。(ONE WORLD English Course 1: Lesson 3 Part 2)

Kenta: I like soccer a lot. Do you like soccer?

Mei: No, I don't. I like tennis.

Kenta: You do? I like tennis, too!

Aya: Do you like pop music?

Mei: Yes. I play the guitar.

Kenta: Oh, I have a guitar, too!

一学期に一般動詞を習うためのこんな簡単な会話でも、content-based task にすることで、生徒は目を輝かせて読む。また、この Lesson 3 の時点で健太がメイに好意を持っていることに触れておき、「今後もこれをにおわせるシーンがあるので楽しみに」と予告しておくこともできる。

③ 次の文を考えさせる

本文と自然につながる文を考えさせることで、本文自体をきちんと読み直させることもできるし、また②で挙げたように、既習部分にもう一度目を通させることもできる。本文の内容によって、生徒が作る文の広がり異なるが、付け加えた文を互いに読み合わせれば、彼らが使える既習事項のバリエーションにも数多く触れさせることができる。

例えば、*ONE WORLD English Course 1: Lesson 8 Part 3* で、冬が嫌いだというメイに、健太が冬のいいところを挙げるシーンがある。最後にメイは「それでも冬はイヤ」と言うのだが、その後のメイのセリフの続きを考えさせる。

Mei: I hate winter in Japan!

Aya: Why?

Mei: Because it's too cold outside.

Kenta: Really? I love winter!

Mei: I can't believe it. Why do you like winter?

Kenta: We have Christmas and New Year's Day. We get gifts and money.

Mei: That's true. But still, I hate winter.

まず生徒は本文を読み直し、メイが外の寒さを嫌がっていることを再確認する。この時点で、“It's too cold for me.” などと言えるだけでも十分だが、できればなぜメイがここまで冬を嫌うのかにまで思いをめぐらせてもらいたい。ここで前のページをめくればメイはシンガポール出身であることを思い出すことができ（基本情報なので覚えている生徒も多いだろうが）、冬のない国から来たメイは日本人のクラスメートよりもずっと寒さに弱いことが想像できる。挿絵でもアヤと健太に比べてメイは耳あて・マフラー・手袋と完全防備な上に腕組みまでしている。“You know, we have no winter in Singapore. / It's always hot and muggy in Singapore, so I don't like cold days.” など、簡単な英語でもいろいろ表現させられる。

④ 虫食い黙読

昨年「虫食い音読」（久保野，2008；筑波大学附属中学校英語科，2013）を紹介したが、その前段階として、「虫食い黙読」を行うことができる。本文の音読練習後に空欄のあるハンドアウトを配付して、空所補充しながら音読させるのが「虫食い音読」だが、「黙読」は「音読」に取り組みやすくするための small step になる。空欄があるが

故に、生徒は漫然と読むのではなく、本文に主体的に関わりながら頭をフル回転させることになり、文章の意味を考えながら読む良い練習になる。

現行の教科書マニュアルには必ず本文データ入りの CD-ROM がついているため、空欄入りのプリント作成は容易にできる。どこを空欄にするかは教師の自由だが、キーワードを抜いておくとも内容重視の読みに、前置詞を抜いたり、動詞を原型にしておいたりすれば意味と形式のつながりを意識した読みに、などの調整ができる。

5. 「読むこと」の評価

ここでは本校の定期試験で「読むこと」に関してどのような出題をしているかを紹介する。観点別評価では「読むこと」は「理解の能力」として測られることが多いが、ペーパーテストの読解問題はいわゆる「総合問題」として出題されてしまうことが多い（青野、2009）。例えば、読解問題の中に冠詞の穴埋めや単語の並べ替え等の文法や語彙の知識を問う問題が入っているなど、1つの大問に複数の観点に渡る問題が含まれてしまっているということである。これを防ぐためにも、年間のテスト計画や、毎回のテストデザインをきちんと作成し、テストポイントや配点の共通理解を持っておく必要がある。できればテストの校正も複数の目で行うことが望ましい。

① 文字と音の関係を問う問題

4. (1)で述べたように、本校では「読むこと」の第一歩として、文字の表す音から指導しているため、中1最初の試験では、音とつづりに関する出題がある。

<出題例 1：中1 前期中間>

これから下の4つの単語について、それぞれア・イ・ウの3通りの発音をします。正しい発音を選び、記号で答えなさい。

- ① cup ② burn ③ slope ④ lime

生徒は文字が音を表すこと、音を表す文字が組み合わせられて単語ができていることを習っているので、上記の問題を見て、放送音声を聞く前にそれぞれの単語を「読み」、頭の中でその音声と意味をつなげていることがここでは期待される。以下、参考までに各問題の選択肢を挙げておく（下線が正解）。

- ① ア cap イ cup ウ cop ② ア barn イ born ウ burn
③ ア slap イ slop ウ slope ④ ア lime イ leam ウ limb

② 1文の理解を問う問題

1文の理解を問うには、和訳させるのも一案だが、意味の切れ目を答えさせることで、文の構造をきちんとつかんでいるか問うこともできる。

<出題例 2：中 2 前期期末>

それぞれの文の意味を適切に伝えるためには、どこで区切って読んだら良いか、区切れ目をア～エの記号で答えなさい。

1. He bought medicine for his wife and food for his children.

ア イ ウ

(Answer: イ)

ここでは medicine と food, for his wife と for his children のコントラストをきちんとおさえられているかが問われている。

③ 既習の文章の理解を問う問題

本校では読解問題を、副読本を読み始める中 1 の学年末試験あたりから出題している。教科書や副読本で既習の文章から出題する際、本校で気をつけていることは、前述のように「総合問題」にならないようにすることに加えて、完全に生徒の記憶力に頼る問題にならないようにすることがある。これは、テストの役割は、英文を理解できるかを問うことであり、授業でやったことや本文の内容を記憶しているかどうかには偏るべきではないと考えるからである。そのため、本校では既習範囲からの出題であっても、初見で読む人が解けるかどうかを作問の一つの基準にしている。

既習問題の出題方法はいろいろあるが、簡単にできる例をいくつか挙げることにする。いずれも初見の問題で問うには難易度が高いが、コンテキストがわかっている既習の文章であれば、余裕を持って取り組ませることができる。なお、単語や文を選択肢から選ばせる空所補充や、内容に関する正誤問題はよく見られる出題例なので、ここでは省略する。

ア) 空所を補充させる

文脈に沿った語を空所に補充させるのは最もポピュラーな形式であるが、生徒が文章を記憶していなければ解けない問題にならないようにするために、補充する語は本文から抜き出させるようにするとよい。補充する語は 1 語でも連語でもよい。以下は連語を入れさせる例である。

<出題例 3：中 2 前期期末・副読本より>

次の文章を読み、空欄に入るもっとも適切な 3 語を本文中より抜き出して答えなさい。

Mr Johnson died suddenly, and people said, 'His servants killed him, because they wanted his money.' But the servants said, 'No, he killed himself.'

The police came and asked the servants a lot of questions, and after a few weeks, there was a big trial. There were two famous lawyers and several important witnesses.

'Tell me,' one of the lawyers said to a witness one day, 'did Mr Johnson often talk to himself when he was alone?' 'I don't know,' the witness answered at once.

'You don't know?' the lawyer repeated angrily. 'You don't know? But you were his best friend, weren't you? Why don't you know?'

'Because I was never with him when _____,' the witness answered.

(Answer: he was alone)

イ) 余計な単語や文を見つけさせる／誤りを含む文を見つけさせる

本文の流れを遮るような単語や文を入れておくと、あるいは文の一部を本文に合わないように変えておくと、生徒が目や素早く動かしながら文章を読んでいく際に、きちんと読めていれば、必ずその部分で「おや?」とひっかかるはずである。余計な単語の場合はその一語を書かせるだけで、余計な文や誤りを含む文の場合は記号をふってあげば、その記号を書かせるだけですむので、採点も楽である。以下は余計な文を見つけさせる例である。

<出題例 4：中3 学年末・教科書より>

次の文章には余計な文が1つあります。その文を選び、ア～キの記号で答えなさい。

ア I believe it's important not to make judgments about other people too soon. イ I am glad I didn't, because you proved that people's advice can be wrong. ウ Now I want each of you to be a person who can respect others without prejudice. エ Prejudice is caused by premature judgment. オ I hope you'll be able to enjoy communicating in English with someone different from you. カ Why don't you talk to me, not to your friend? キ We are, after all, people living together in one world.

(Answer: カ)

ウ) 迷子の単語／文を元に戻させる

ア) に似ているが、入れる表現はわかっている、入れる箇所がわからないのでやや難易度が挙がる。これはイ) の反対で、あるべき単語や文を抜いておくと、やはりきちんと読めている生徒は、該当箇所「おや?」とひっかかるはずである。抜く単語や文を選ぶ際は、その部分がなくても英文が文法的におかしくないかどうかチェックする必要がある。文法的に非文になってしまうと、読解できなくても文法知識だけで正解できてしまう場合があるからである。以下は迷子の文を元に戻させる例である。

<出題例 5：中2 前期期末・副読本より>

次の文章には の文が抜けています。この文が入るべき箇所を考え、その直前の2語を解答用紙に書きなさい。

Jack went to Manchester by train. He left the station, and thought, 'The office isn't far from the station. I'll find it easily.'

But after an hour he was still looking for it, so he stopped and asked an old lady. She said, 'Go straight along this street, turn to the left at the end, and it's the second building on the right.' Jack went and found it.

A few days later he went to the same city, so he asked someone the way. It was the same old lady! She was very surprised and said, 'Are you still looking for that place?'

(Answer: same city)

④ 初見の文章の理解を問う問題

前述のように、まず「総合問題」にならないような配慮が必要である。文章全体を理解できているかは正誤問題で問うことが多く、選択肢は日本語／英語のどちらでもよいが、一般常識で正答できてしまわないか、チェックが必要である。また、以下の例のように、細部を問う問題があってもよいが、この場合は話の流れをとらえられているかを接続詞や

肯定／否定を選ばせることで問うており，文法問題にならないようにしてある。

＜出題例 6：中 1 学年末＞

次の文章を読み，以下の問いに答えなさい。

Turtles usually live for many, many years. But the number of sea turtles is falling.
Every year, many people take sea turtle eggs. Some people eat the eggs. Other people buy and sell turtles for food.

Sometimes sea turtles also eat trash and die. Balloons and plastic bags fall into the sea, and their color comes off in the seawater. Sea turtles mistake the balloons and bags for jellyfish. Sea turtles love jellyfish,
① (ア but イ so) they eat the trash!

Every year, hundreds of sea turtles die from plastic bags and balloons.
Can you believe it? It's true. Help the world's turtles. ② (ア Don't イ Please) throw away plastic bags. And please hold on to your balloons.

sea turtle ウミガメ sell 売る trash ゴミ die 死ぬ balloon 風船 plastic bag ビニール袋
come off (色などが) おちる mistake ~ for ... ~を...とまちがえる jellyfish クラゲ
believe 信じる true 真実の throw away 投げ捨てる hold on to ~ ~をつかまえておく

問 1 (①) (②) に適切な語を選び，記号で答えなさい。

問 2 英文の内容に合うものを 3 つ選び，記号で答えなさい。

- ア カメは長生きする
- イ ウミガメの数は増えている
- ウ 人間もウミガメの卵を利用している
- エ ウミガメはクラゲが好物である
- オ ウミガメはクラゲを食べ過ぎて死んでしまう
- カ 我々はウミガメをしっかりつかまえておくべきだ

(Answer: 問 1 ①イ②ア 問 2 アウエ)

6. まとめ

(1) 「読むこと」を関連させた統合的な活動

すでに 4. の実践例でも紹介されているが，「読むこと」の活動は他の技能との統合的な活動に発展させやすい。以下に紹介する活動は高校や大学の英語科の授業などでよく行われている活動であるが，読ませる教材の難易度や活動の達成目標を調整すれば公立中学校でも十分行うことができる。実際，過去に中学校の公開授業で紹介されたことがある。

① サマリー＆レポート

教科書本文の要点をまとめて口頭発表させる活動である。元々は「読むこと」の活動であった本文理解活動が，発表をさせることで「話すこと」や「聞くこと」の技能と統合された活動になる（事前に原稿を書かせたり，話した内容を書かせたりすれば「書くこと」も含まれる）。この活動を行う際には，生徒全員が共通の情報を持っているので，本文をそのまま再生するのではなく，自分のことばで要点を説明させることが大切である。なお，本活動は筑波大学附属高校の総合英語（旧「英語 I」，現「コミュニケーション英語 I」）の授業では次時の授業における復習の最終目標となっている定番の活動である。

② ブック・レポート（リード＆レポート）

自分が読んだ本や雑誌記事などの内容を，それを知らない仲間に説明する活動であ

る。この活動の特徴は、内容の異なった複数の教材を扱うことで生徒の間にインフォメーション・ギャップをもたせ、活動自体に生徒のやる気を起こさせる動機付けの要素が含まれていることである。「読むこと」からスタートした活動が、「話すこと」、「聞くこと」、「書くこと」へとつながっていく、典型的な技能統合活動である。実際の指導の手順例は、①教材を読ませる、②伝える内容を考えさせる、③伝えるために必要な表現を考えさせる、④伝える練習をさせる、⑤ペアやグループで伝え合う、⑥聞いた内容を書いてまとめる、などがある。①～④はペアやグループでやらせるようにするとよい。

(2) 語彙力の指導

英語を読んで理解する力の要素の1つとして語彙力があげられる。すなわち、それが単文であろうと長文であろうと、英文の意味を理解するには、読み手がどのくらい既知の語句をもっているかにかかっているということである。文法力も英文を理解する力を大きく左右するが、こちらは中学校で学ぶ文法を完璧にマスターしていさえすれば、対象がどれほど難しい専門書であっても、なんとか構文を分析しながら読み進めることができる。しかし、語彙力だけはいかんともしがたい。では、中学校で語彙の指導をどのようにしたらいいであろうか。いくつかの学校では、その学校独自の語彙指導計画を元に系統的な指導が行われている。しかも、共通するのは言語活動や教科書等の教材内容に関連した語句を並行して指導するというものであり、けっして無味乾燥な単語帳のようなもので機械的に覚えさせるというようなものではない。

本校では、そのような指導は積極的には行っていない。具体的には、教科書の語彙については、全て意味を理解し、表現できることを求めるが、副読本や「基礎英語」については、意味の理解に留めている。これは、未習の内容を表現しなければならなくなったときに、本校では新たな語彙を増やすよりも既習の語彙を駆使して表現する力を身に付けるということを優先しているからである。語彙を広げることに特化した学習は、主に高校の指導に任せている。

(3) 読むことを「楽しむ」生徒の育成

他のどのような教科の学習でもそうであるが、授業や家庭学習の指導をどんなに充実させも、生徒がいやいや勉強しているうちは本当の力は身につかない。生徒が自らの意思でその教科の学習を「楽しむ」ようになって初めて真の学力が身につく。その点で言えば、読むことを「楽しむ」生徒を育成することが「読める」生徒を育成する究極の目標と言えるだろう。

本校では、授業で副読本として使っているオックスフォード大学出版のBookwormsシリーズとロングマンのPenguin Readersを図書館に入れて生徒が自由に読めるようにしている。ただ、実際に生徒がどれほどそれを利用しているかという点、実態としてはあまりかんばしくない。そこで、英語科準備室の入口にブックワゴンを置き、英語係を始めとして準備室に来る生徒に「あなたも『リーディング倶楽部』の一員にならない?」と呼びかけてみた。すると最初に数名の女子が読み始め、徐々にその輪が広がってきている。中には毎日借りに来る生徒もあり、英語科教師の誰よりも在庫本の内容に詳しい「マイスター」さえいる。このようなことを地道に続けていくことで、読むことを「楽しむ」生徒

を一人でも多くしていけるといいであろう。なお、在庫本は副教材の見本，過去に使用した副読本，教師個人が持参した本や絵本，生徒や卒業生が提供してくれた本や絵本などで，現時点で500冊（重複を含む）ほどがある。

<参考文献>

- 青野保（2009）「第5章 評価」金谷憲他編『英語授業ハンドブック中学校編』大修館書店 pp.249-304
- 久保野雅史（2008）「音読指導のバリエーション－『考える音読』と『虫食い音読』で知識を技能に」『英語教育』2008年10月号 pp.19-21
- 高梨芳郎（2009）『〈データで読む〉英語教育の常識』研究社
- 筑波大学附属中学校英語科（2013）「意味を伝える音声指導」筑波大学附属中学校研究部編『第41回研究協議会発表要項』pp.115-128
- 土屋澄男他（2011）「第13章リーディングの指導」『新編英語科教育法入門』研究社
- ベネッセ教育総合研究所（2008）「第1回 中学校英語に関する基本調査報告書【教員調査・生徒調査】」http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/hon/outline_08.html
- Palmer, Harold E. (1924) *Memorandum on Problems of English Teaching in the Light of a New Theory* 開拓社

(資料 1) 教科書の読み物教材用のワークシート

① Alone (1年生 3月)

<p style="text-align: right;">Worksheet for Reading No.165</p> <p style="text-align: center;">Questions & Answers to Understand "Alone"</p> <p>Step 1: 概略を聞き、それぞれのページにある次の質問に答え、物語の大意をつかもう！</p> <p>< p.140 ></p> <p>① Where did Toad find Frog? (p.140)</p> <p>_____</p> <p>② What did Toad make for Frog? (p.141)</p> <p>_____</p> <p>③ Who carried Toad to the island? (p.142)</p> <p>_____</p> <p>④ Why did Frog need time alone? (p.143)</p> <p>_____</p> <p>⑤ What did Frog and Toad do all afternoon? (p.144)</p> <p>_____</p> <p>Step 2: それぞれのページの内容について次の質問に答えて、物語の詳細を理解しよう！</p> <p>< p.140 ></p> <p>① Where did Toad go?</p> <p>_____</p> <p>② What did Toad find on the door?</p> <p>_____</p> <p>③ Was Frog at home?</p> <p>_____</p> <p>④ What does Frog want?</p> <p>_____</p> <p>⑤ Did Toad understand Frog's feeling?</p> <p>_____</p> <p>⑥ What did Toad do then in Frog's house?</p> <p>_____</p> <p>⑦ Where did Toad go and what did he do there?</p> <p>_____</p> <p>⑧ Where and how was Frog?</p> <p>_____</p>	<p>< p.141 ></p> <p>① What can Toad do for Frog?</p> <p>_____</p> <p>② What did Toad do?</p> <p>_____</p> <p>③ What did Toad do at his house?</p> <p>_____</p> <p>④ What did Toad do then?</p> <p>_____</p> <p>⑤ What did Toad shout at Frog?</p> <p>_____</p> <p>⑥ Where was Frog?</p> <p>_____</p> <p>⑦ Did Frog see or hear Toad?</p> <p>_____</p> <p>< p.142 ></p> <p>① Who swam by?</p> <p>_____</p> <p>② What did Toad say to the turtle?</p> <p>_____</p> <p>③ Did the turtle carry Toad to the island?</p> <p>_____</p> <p>④ What did Toad shout at Frog?</p> <p>_____</p> <p>⑤ What did Toad do then?</p> <p>_____</p> <p>< p.143 ></p> <p>① What did Frog do to Toad?</p> <p>_____</p> <p>② How were the sandwiches and the tea?</p> <p>_____</p>
--	---

② Stone Soup (2年生 5月)

<p style="text-align: center;">Reading: Stone Soup ①</p> <p style="text-align: center;">二先知語にめげずに残剩して残むおを分けよう。</p> <p>◎未知語があっても辞書を頼ったりせず、おおまかな内容をつかんでみよう。</p> <p>Task 1: パート毎に文章を読み、その内容を日本語一文で説明してみよう。</p> <p>※「誰」が「～」して、「誰」が「～」した。程度で、</p> <p>※パート毎に内容を確認するので、点線部で紙を折って次を見ないようにしよう。</p> <p>① Three soldiers walked into a village. They were on their way home from the wars. They were tired and very hungry, but the villagers were afraid of strangers. The villagers said, "Soldiers are always hungry. We have little enough for ourselves." They hid all their food.</p> <p>Round 1: _____</p> <p>Round 2: _____</p> <p>② The soldiers stopped at one house after another and asked for food, but the villagers' answer was always the same. They all said, "We don't have any food." The three soldiers talked together. Then a soldier called out, "Good people! You have no food. Well then, we'll just make stone soup." The villagers all looked at the soldiers. "Stone soup?"</p> <p>Round 1: _____</p> <p>Round 2: _____</p> <p>③ "First we'll need a large pot," the soldiers said. The villagers brought a very large pot. The soldiers filled it with water and heated it up. Then they found three large stones and put them into the pot. They also put in salt and pepper and said, "Stones like these make good soup, but with carrots and cabbages, it will taste great." Villagers brought them some carrots and cabbages. "Beef and potatoes will make a wonderful dinner out of this soup." The villagers brought their potatoes and beef right away.</p> <p>Round 1: _____</p> <p>Round 2: _____</p>	<p style="text-align: center;">Reading: Stone Soup ②</p> <p style="text-align: center;">二各語の意味に算えながら内容を残読する。</p> <p>◎次の各質問に対する答えを英語で書こう。その際によく理解できない表現があったら下線を引いておこう。</p> <p>① 1. What did the three soldiers do?</p> <p>_____</p> <p>2. Where were the soldiers? (Where were they from and going to?)</p> <p>_____</p> <p>3. How were the soldiers? (Were they fine?)</p> <p>_____</p> <p>4. How were the villagers? (Were they happy with the soldiers?)</p> <p>_____</p> <p>5. Did the villagers have a lot of food for themselves?</p> <p>_____</p> <p>6. What did the villagers do then?</p> <p>_____</p> <p>② 1. What did the soldiers do?</p> <p>_____</p> <p>2. What did the villagers say to the soldiers?</p> <p>_____</p> <p>3. What did the soldiers do then?</p> <p>_____</p> <p>4. What did one of the soldiers call out?</p> <p>_____</p> <p>5. Did the villagers understand "stone soup"?</p> <p>_____</p> <p>③ 1. What did the villagers do?</p> <p>_____</p> <p>2. What did the soldiers do?</p> <p>_____</p>
--	--

③ A Message from Sea Ice (2年生 10月)

Let's read a story! No. 205

A Message from the Sea Ice 第一読解 (白文)

Task 1: 次のヒントのみを参考にして本文を読み、理解できない単語を本般で調べながら、どれだけあらずじをつかめるか試そう。

<ヒント> ここ数十年、地球温暖化についての議論がされてきました。この文章は、それに対する、流氷に暮らす動物からのメッセージです。

Sea ice has a cycle. It starts to appear in the fall. In the middle of the winter, it grows big and thick. It looks like white land, just like in this picture.

People and animals can walk on it. In the spring, the weather gets warm, and the sea ice melts and disappears.

Mother harp seals have their babies on sea ice because it is a safe place for the babies. Killer whales and polar bears cannot attack them. Baby seals are yellow at birth, but soon become white. White is a safe color on ice.

The mother seal and her baby stay together only for two weeks. The mother seal does not eat at all during that time. The sea ice is always floating and moving. So if the mother leaves the ice to catch fish, she may never find her baby again.

The mother seal gives milk to the baby seal, and the baby grows big and fat. After about ten days, it learns from its mother how to swim. It can float, but cannot swim or dive well.

After two weeks, the mother seal leaves her baby on the ice and never comes back. The baby misses its mother and tries to find another seal. If you look at this picture, you can see baby seals here and there on the sea ice.

Sea ice is a safe place for baby seals. In two weeks, they become thin, and their color changes from white to gray. Now the young seals are ready to swim and catch fish by themselves. Just in time, the sea ice starts to melt. Soon, the young seals become good swimmers, and they can live safely in the water.

However, something is wrong in this picture. This baby seal cannot swim yet, but the sea ice is already melting. Killer whales may come to eat it at any time. Because of global warming, sea ice is melting very early. As a result, up to 75% of the 700,000 Canadian baby harp seals died in 2002.

What can we do to save the baby seals? We cannot wait too long. We should act quickly.

Task 2: あらずじを100 程度の日本語でまとめてみよう。

消した単語は _____ 語

Let's read a story! No. 206

A Message from the Sea Ice 第二読解 (主題文)

Task 3: 各段落の最初の一文 (下線の文) だけ全てつなげて読んでみよう。どんなことがわかるだろうか?

- 1 Sea ice has a cycle. It starts to appear in the fall. In the middle of the winter, it grows big and thick. It looks like white land, just like in this picture.
- 2 People and animals can walk on it. In the spring, the weather gets warm, and the sea ice melts and disappears.
- 3 Mother harp seals have their babies on sea ice because it is a safe place for the babies. Killer whales and polar bears cannot attack them. Baby seals are yellow at birth, but soon become white. White is a safe color on ice.
- 4 The mother seal and her baby stay together only for two weeks. The mother seal does not eat at all during that time. The sea ice is always floating and moving. So if the mother leaves the ice to catch fish, she may never find her baby again.
- 5 The mother seal gives milk to the baby seal, and the baby grows big and fat. After about ten days, it learns from its mother how to swim. It can float, but cannot swim or dive well.
- 6 After two weeks, the mother seal leaves her baby on the ice and never comes back. The baby misses its mother and tries to find another seal. If you look at this picture, you can see baby seals here and there on the sea ice.
- 7 Sea ice is a safe place for baby seals. In two weeks, they become thin, and their color changes from white to gray. Now the young seals are ready to swim and catch fish by themselves. Just in time, the sea ice starts to melt. Soon, the young seals become good swimmers, and they can live safely in the water.
- 8 However, something is wrong in this picture. This baby seal cannot swim yet, but the sea ice is already melting. Killer whales may come to eat it at any time.
- 9 Because of global warming, sea ice is melting very early. As a result, up to 75% of the 700,000 Canadian baby harp seals died in 2002.
- 10 What can we do to save the baby seals? We cannot wait too long. We should act quickly.

<わかったこと> ※ () に適切なことばを入れてみよう。

① ある程度まとまった長さの文章を読むときは、各段落の () の一文をつなげて読む () を理解することができる。

② 各段落の () の一文以外の文は、() の一文の内容を詳しく () したり、() したりする内容になっている。

<備考> 「段落」のことを英語では「パルグラフ」と呼ぶ。 (「主題文」)

- ・各段落の内容の概要をズバリ語っている文を「()・センテンス」と言う。
- ・上記の文は各段落の () の一文であることが多い (そうでない場合もある)。

④ Audrey Hepburn (3年生 6月)


Audrey Hepburn ①

No. 325

◇各パートの質問の答えになる部分に問題番号をつけて下線をひこう。

Do you know anything about this person? Have you ever seen *Roman Holiday* or *My Fair Lady*? She was the star of these movies! Her name was Audrey Hepburn. She was famous as an actress, but she has left us something more than these movies.

① Who is Audrey Hepburn?



Hepburn had a difficult time when she was a child. Although her father was rich, he left the family when she was young. Her mother took Audrey to the Netherlands when she was ten. She thought it was a safe place, but the German army took over the Netherlands when Audrey was eleven. Her dream of becoming a ballerina had to wait.

During the war, Hepburn's life was very difficult. After the German army came, their life changed. There was never enough food. There wasn't even enough firewood for the fireplace. Many people died of hunger and the cold, especially young children and old people. Hepburn also suffered from hunger. She became very weak. When there was no food, she even ate tulip bulbs.

② What was Hepburn's life like during the war?

Hepburn's talent started to bloom after the war. She moved to London with her mother, and she practiced ballet and began to study acting. After a while she was discovered by the American director William Wyler and was cast as a princess in *Roman Holiday*. The movie was a big hit.

CAST-CAST-CAST

Audrey Hepburn ②

No. 326

◇No.325を読んで、各質問の答えをさがそう。

1. ヘプバーンの父についてわかることは? _____
2. 10歳のとき、どこへ移住した? _____
3. 11歳のとき、ドイツ軍は何をした? _____
4. 空腹のあまり、何まで食べてしまった? _____
5. 戦後、ロンドンで何を始めた? _____
6. 彼女の才能を見出した人は? _____
7. 「ローマの休日」以外のヒット作は? _____
8. ヘプバーンが大切にしていたことは? _____
9. 結婚後、住んだ国は? _____
10. 映画の仕事や断ったのはなぜ? _____
11. ヘプバーンの使命とは? _____
12. ユニセフの有難みを知っていたのはなぜ? _____
13. いつ、どうして亡くなった? _____
14. なぜ人は彼女を忘れないのか? _____

(資料2) 副読本用のワークシート

① The Town Mouse and the Country Mouse (1年生12月)

Worksheet for Further Reading | **No. 142**

The Town Mouse and the Country Mouse

Task 1: Picture Dictionary (pp.22-23) を参考にして、次の単語の意味を書きなさい。

- cart () • cheese () • clock () • country () • cow ()
- dark () • dry () • feet () • field () • fire ()
- food () • grass () • mouse () • noise () • sheep ()
- street () • tired () • town () • trap ()
- trousers () • warm () • wet ()

Task 2: 物語を読んで内容を理解し、重要な表現も学習しなさい。() に適切なことばを、「」にせりふを日本語で入れ、_____ に適切な単語を書きなさい。

<Scene 1> (p.2)

①ここは () である。
 ②ある日、() が彼に () 。
 [注] to see... ~に会うために

<Scene 2> (p.3)

① Country Mouse の家には () 。
 [注] There is... ~がある / ...to eat 食べるための~
 ② Town Mouse は () 。
 [注] think 思ふ (主) が (動) と思う
 ③ Town Mouse は () ので、() 。
 [注] a little bit ほんの少し
 ④ Country Mouse は Town Mouse に「 _____ 」と言う。
 ⑤ Town Mouse は「 _____ 」と言う。
 [注] _____ は相手の申し出をていねいに断るときの表現。

<Scene 3> (p.4)

① Country Mouse は Town Mouse に () 、 「 _____ 」と言う。
 ②しかし、Town Mouse は () と思う。
 ③ Town Mouse は () 。
 [注] not ~ very あまり~でない (=部分否定。「とても/まったく~でない」ではない)
 ④ Town Mouse は () できない。
 ⑤ (田舎の夜は) とても () 、 () である。

<Scene 16> (p.17) ※<Scene 7> (p.8) に対応しているので読み比べてみましょう。
 ① Scene 16 が Scene 7 と異なるのは () 。
 ※上記に加えて、次の点が異なる。
 ② Country Mouse が () のは次の理由による。
 • () 。
 ③ Town Mouse は「 _____ 」と言う。

<Scene 17> (p.18) ※<Scene 8> (p.9) に対応しているので読み比べてみましょう。
 ① Scene 17 が Scene 8 と異なるのは () 。
 ※上記に加えて、次の点異なる。
 ② 荷車が () になり、中に () が乗っている。
 ③ _____ Mouse は _____ Mouse に「 _____ 」と言って分かれる。
 ④ _____ Mouse は _____ Mouse に「 _____ 」と言う。

<Scene 18> (p.19) ※<Scene 9> (p.10) に対応しているので読み比べてみましょう。
 ① Country Mouse は家に帰ると、() に座る。
 [注] by ~のそばに ※ near よりも近い印象を与える
 ② Country Mouse は「 _____ 」と言う。

Task 3: Exercises (pp.20-21) をやり、答えをこのワークシートに書こう。

1 Complete the words.

The _____ >
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____

The _____ >
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____

2 Choose a, b, or c.

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____

3 Answer the questions.

1 _____ 2 _____
 3 _____

4 Answer the questions.

1 You can have _____ 2 Hurry _____!
 3 Oh! _____? 4 _____ me.

Class: No.: Name: _____

- 1 -

② Elementary Steps to Understanding (2年生4月~10月)

Let's Read a Short Story! (5) **No. 199**

2年 _____組 _____番 氏名: _____

Task 1 物語の前半を読んでみよう。

General Pershing was a famous American officer. He was in the American army, and fought in Europe in the First World War.
 After he died, some people in his home town wanted to remember him, so they put up a big statue of him on a horse.

Words & Phrases	
General Pershing	パーシング将軍(人名)
officer	将校(軍隊の指揮官)
army	陸軍
fight (過去: fought)	戦う
war	戦争
the First World War	第一次世界大戦
die (過去: died)	死ぬ
remember	~を覚えている
put up	~を建てる
statue	像
horse	馬


Task 2 もう一度物語を読んで、問題に答えよう。

[Q1] What did General Pershing do in the First World War?
 ()

[Q2] Why did people in his town put up a statue of him?
 Because they ()

Task 3 ①、②の問いに答えよう。

① What is the statue like?
 ② What is the boy saying?



Task 4 物語の後半を読んでみよう。
 ■テキスト 12 ページ。

Words & Phrases			
pass (過去: passed)	~を通り過ぎる	whenever	~する時はいつでも
on their way - again	~への途中で もう一度	soon	まもなく
a few months	数か月	the smallest of - these	~の一番小さい
begin (過去: began)	~を始める	back	背中

Task 5 もう一度物語を読んで、物語の内容をまとめてみよう。
 ① []の中に statue, home, school のいずれかを入れ、通学の様子を表そう!

← 朝

[] ← [] ← [] ← []

帰り →

②本文を読んで下の表にまとめてみよう!

General Pershing	He fought in () in the First () () .
After General Pershing died	Some people () up a big () of him on a () .
After a few months	() of the boys () () () . () .
Soon after	() the boys () () () . () .
One Saturday	() of the () () () () . of these boys () . "...but () that () () on his () ?"

Task 6 物語のオチを説明してみよう。
 ☆ Why is the boy's last word funny?
 Because he thought () was the () .

③ *Sherlock Holmes: The Blue Diamond* (2年生 12月～冬休み)

Worksheet for Extra-Further Reading 2 No. 228

Let's Read Chapter 1

Sherlock Holmes: The Case of THE BLUE DIAMOND (pp.1-7)

◎テキストを読みながら次の各問いに答えてください。ただし、問いの末尾にある()内の表示は、答えやヒントとなる事柄が書かれているページとしたい位置(上・中・下)を表します。

- この物語の語り手はどのような人ですか？(1, 上)
 - 名前…
 - 主人公シャーロック・ホームズとの関係…
- 語り手がホームズの家を訪れたときのことを説明してください。(1, 中)
 - いつ…
 - ホームズの家所在地…
 - 訪問の目的…
 - ホームズが座っている場所…
 - ホームズが関心を示している物…
 - ホームズが手に持っている物…
- 語り手はホームズの様子を見てどのような気持ちになりましたか？ア～エの中から選んでください。また、その気持ちがわかる1文を答えてください。(1, 下)

ア 訪問の用件を果たそうとした イ 面白い話をしようとした ウ ホームズの様子を尋ねようとした エ ホームズの様子を察して帰ろうとした	左の答えがわかる1文
--	------------
- ホームズが関心を示している物について、語り手(ワトソン)が疑問に思ったことは何ですか？(2, 上)

[注] something to do with ... ～と何か関係があるもの
 → I have **nothing to do with** it. (私はそれと何も関係はない)
- ホームズが関心を示している物(古い帽子)はどうしてそこにあるのですか？(2, 上)
- 古い帽子の他に話題に上っている物はありますか？そしてホームズはそれをどうしましたか？(2, 上中)
- ワトソンが "I don't understand."と言ったのはなぜですか？(2, 中)

- 古い帽子とガチョウがホームズに届いた過程をまとめてみましょう。(2, 中～3, 上)
 - 古い帽子とガチョウを元々持っていたのは誰か？
 - それをピーターソンが目撃したのは、いつ？… どこで？…
 - ピーターソンが目撃した事件は？…
- 元々の持ち主が走り去った理由をピーターソンはどう考えている？(2つ)
 - …
 - …
- その事件の後、ピーターソンは古い帽子とガチョウをどうした？
- 古い帽子とガチョウの持ち主が判明したことについてまとめてみましょう。(3, 中下)
 - 持ち主の名前は？…
 - 判明した理由は？…
 - 困っていることは？…
- ワトソンが気になったことは何ですか？(4, 上)
- ワトソンが帽子を虫眼鏡で観察してわかったことは何ですか？(4, 上)
- ホームズが帽子を観察してわかった事柄4つとその理由は何ですか？(4, 中～5, 中)
 - 事柄…理由…
 - 事柄…理由…
 - 事柄…理由…
 - 事柄…理由…
- ホームズとワトソンが話している時に突然起こったことは何ですか？(5, 中下)
- ホームズはそれに対してどのような冗談を言いましたか？(5, 下)
- ピーターソンが興奮してやって来た理由は何ですか？(5, 下)

課題 pp.6-7の問題をやりましょう。答えはテキストに直接書いてください。

④ *One-Way Ticket* (3年生 7月～夏休み)

No. 433 No. 437

The Girl with Green Eyes 1
(p.1 ~ p.4 l.2)

3年 組 () _____

- p.1の7行目までにどんな登場人物が出てきますか。また、ここまでの間に、その登場人物についてわかったことを書きなさい。
 - ・
 - ・
 - ・

<注意すべき表現> *()内の数字は「～行目」

 - ・ Julie didn't answer and looked bored.
 - ・ He told a long, boring story about his wife ...
- p.1下から6行目 It was a hot day and the train was slow. は、この話が今後どんな話になりそうな雰囲気を与えていますか。
- p.1下から6行目から始まる段落を読んで、この客車に乗っている人物をすべて書きなさい。
 - ・
 - ・
 - ・
- p.1下から2行目 ~ p.3の7行目までを読んで、次の登場人物についてわかったこと(外見・性格等)を日本語で簡潔に答えなさい。
 - (1) Bill:
 - (2) Julie:
 - (3) the man in the brown hat:

<注意すべき表現>

 - ・ They wanted to be noisy and run up and down the train.(9)
 - ・ She took an orange out of her bag ... (14)
- p.3下から5行目から始まる段落を読んで、JulieがBillに対してどんな気持ちを持っているか答えなさい。

South for the Winter 1
(p.14 ~ p.19)

_____ 組 () _____

- p.14の最初の段落から、主人公の好きなことを3つ書きなさい。
 - ・
 - ・
 - ・

<注意すべき表現> *()内の数字は「～行目」

 - ・ I like to move on... (2)
- 2つ目の段落から I like to go south in the winter. の理由を答えなさい。
 - ・
- p.15の最初の段落から、主人公が気に入った人物についてすべて説明しなさい。
 - ・
- 主人公は、なぜ the two girls を "You are American" と言ったのか説明しなさい。
 - ・
- 最後の段落を読んで、the two girls がどんな人物か答えなさい。
 - ・
- p.17の最初の段落から、主人公の録の計画を説明しなさい。
 - ・
- 主人公は、the two girls をどう思ったか、また3人でどんな話をしたか答えなさい。
 - ・
- 下から7行目の段落で、the two girls はどんな計画を提案したか答えなさい。
 - ・
- p.19の最初の段落を読んで、列車中の様子を説明しなさい。
 - ・
- 主人公に対して the two girls から食事についてどんな提案があったか答えなさい。
 - ・